

日本英語教育学会第43回年次研究集会

テーマ:校種間のなめらかな接続とゆるやかな連携

2013年3月16日(土), 会場:早稲田大学(早稲田キャンパス)8号館3階303/304/305会議室

「総合的な学習の時間」の課題における 「知識の理論(**TOK**)」の有用性

早稲田大学教育学研究科修士課程**1**年 大塚恵理子

目次

1. 研究背景および本発表の目的
2. 『生きる力』と総合的な学習の時間
3. 課題解決の示唆としての国際バカロレア
4. 「知識の理論(TOKとは)」
5. おわりに

1-1 研究の背景

- ・近年の知識基盤社会を背景に生まれた「新しい能力観」が注目されている。個別的な知識である専門知識ではなく、既得の知識をいかに有効に活用するかの知識である「**メタ知識**」(齊藤雄志『知識の構造化と知の戦略』2005,専修大学出版局)を学校教育でいかに育むかが重要になってきた。
- ・「**メタ知識**」は言語的表現が難しく、体系化しづらく、教えづらいという側面をもつ。
- ・**総合的な学習の時間**において「メタ知識」の育成が試みられているが、評価基準がないため曖昧な理解、実践に終始している現状。

1-2 本発表の目的

- 国際的な大学入学資格を付与する、代表的機関である国際バカロレア機構が実施している「知識の理論 (TOK: Theory of Knowledge)」という科目を取り上げ、
- 今後の日本の学校教育で展開されている「総合的な学習」の質の向上に向けた取り組みを検討すること。

目次

1. 研究背景および本発表の目的
2. 『生きる力』と総合的な学習の時間
3. 課題解決の示唆としての国際バカロレア
4. 「知識の理論(TOKとは)」
5. おわりに

2. 『生きる力』と総合的な学習の時間

2.1 『生きる力』

①自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力

②自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性

③たくましく生きるための健康や体力

2.2 総合的な学習の時間のねらい

1. 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること
2. 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること 総則第4(1989)
3. 各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技術等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること(2003年改訂)

文部科学省、『中学校学習指導要領解説
総合的な学習の時間』2008.

さらに2008年の改定で「**探究的な活動**」という学習目標が加わり、より「**メタ知識**」が重視されるようになった



ただし、授業の狙いや育てたい能力は各学校に委ねられている

3. 国際社会に求められる<新しい能力>

3.1 「メタ知識」

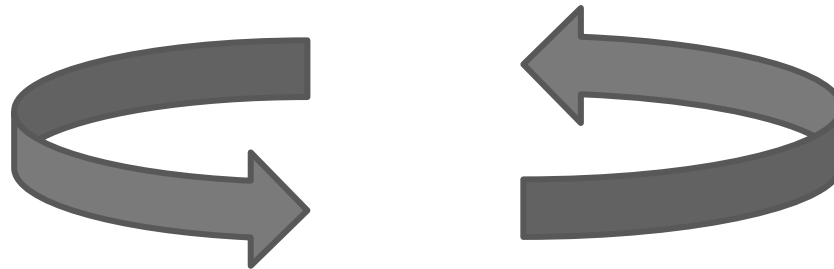
<新しい能力>

「90年代に入ってから、多くの経済先進国で共通して教育目標に掲げられるようになった能力に関する諸概念」(松下、2011)

・個別知識

松下佳代(編),『<新しい能力>は教育を変えるか
学力・リテラシー・コンピテンシー』, ミネルヴァ書房, 2011.p2

事実や専門知識などの知識



・「メタ知識」

知識の管理・操作に関する考えや方法あるいは推論のメカニズム

「調査研究をすること、論文や報告書を書くこと、提案すること、計画すること、設計すること、小説を書くこと、新しいプロジェクトを立ち上げる」(齊藤,2005)際に必要な能力。

3.2 関連用語一覧

機関・プログラム	名称		
OECD-PISA	リテラシー	・道具を相互作用的に用いる力 ・活用力	2001
内閣府	人間力	・論理的思考力、想像力などの知的能力的要素	2003
OECD-DeSeCo	キー・コンピテンシー	・知識や情報を活用する能力	2006
経済産業省	社会人基礎力	・考え抜く力(シンキング)	2006
文部科学省	学士力	・汎用的技能 ・統合的な学習経験	2008

松下佳代(編),『<新しい能力>は教育を変えるか 学力・リテラシー・コンピテンシー』, ミネルヴァ書房, 2011 より筆者作成

3.3 総合的な学習の時間の現状

・「大きな成果を上げている学校がある一方、当初の趣旨・理念が必ずしも十分に達成されていない状況」

⇒ 趣旨・理念が共有されていない

・「小学校と中学校とで同様の学習活動を行うなど、学校種間の取組の重複も見られる」

⇒ 学校種間の取組の重複

・「総合的な学習の時間においては、教科の補充・発展や学校行事などと混同された実践が行われている例も見られる」

⇒ 教科の補充や学校行事などと混同されている

文部科学省『総合的な学習の現状と課題、改善の方向性(検討素案)【見え消し版】』1997.p.1

3.4 「総合的な学習」の5つの課題

1. 明確・精緻な目標の提示
2. 評価の視点を明確化する
3. 関連する教科の整理
4. 効果的な事例の情報提供
5. 実施状況を点検・評価する

目次

1. 研究背景および本発表の目的
2. 『生きる力』と総合的な学習の時間
3. 課題解決の示唆としての国際バカロレア
4. 「知識の理論(TOKとは)」
5. おわりに

3. 課題解決の示唆としての国際バカロレア

・2011年5月 「グローバル人材育成推進会議」

☆国際バカロレア資格への対応

「高校卒業時に国際バカロレア資格を取得可能な、又はそれに準じた教育を行う学校を5年以内に200校へ増加させる。」

「IBの教育理念は全人教育にあり、そのカリキュラムは学習指導要領が目指す『生きる力』の育成や、課題発見・解決能力、論理的思考力やコミュニケーション能力等重要能力・スキルの獲得に資するもの」

国際バカロレア・ディプロマプログラムにおける「TOK」に関する調査研究協力会議, “国際バカロレアディプロマ・プログラム Theory of Knowledge (TOK) について”, 文部科学省, 2012年8月 .p2

4.1 国際バカロレア・ディプロマプログラム

国際バカロレア (TB: International Baccaraureate)

設立: 1965年

対称: インターナショナルスクールの卒業生

内容: 国際的に認められる大学入学資格

・16～19歳 **ディプロマプログラム(DP)**

ディプロマ資格取得要件

① Extended Essay (EE: 課題論文)

② **Theory of Knowledge (TOK: 知識の理論)**

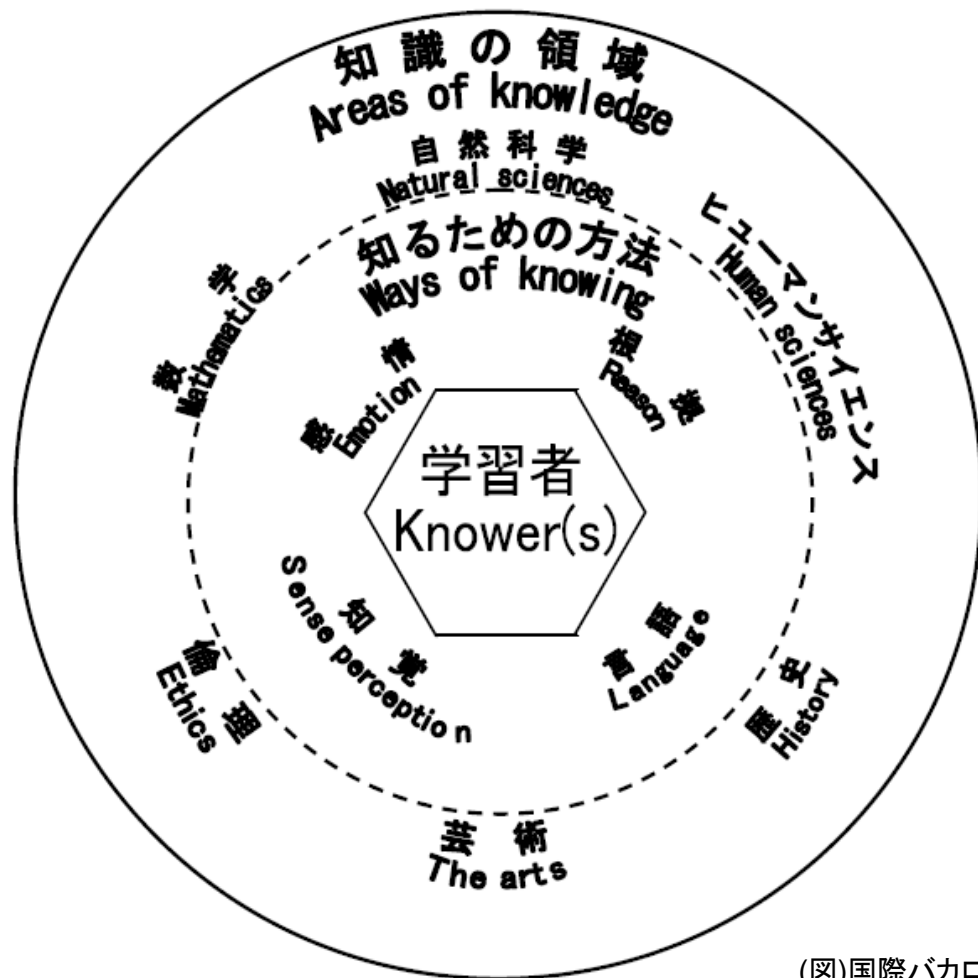
③ Creativity/Action/Service (CAS: 創造性・活動・奉仕)

目次

1. 研究背景および本発表の目的
2. 『生きる力』と総合的な学習の時間
3. 課題解決の示唆としての国際バカロレア
4. 「知識の理論(TOKとは)」
5. おわりに

4. 「知識の理論(TOK)」とは

4.1 TOKの全体像



TOKダイアグラム

- 学習者を中心に据える
- 知るための方法
 1. 感情
 2. 知覚
 3. 言語
 4. 根拠
- 知識の領域
 1. 自然科学
 2. 数学
 3. 倫理
 4. 芸術
 5. 歴史
 6. ヒューマンサイエンス

(図)国際バカロレア・ディプロマプログラムにおける「TOK」に関する調査研究協力会議,“国際バカロレアディプロマ・プログラム Theory of Knowledge (TOK)について”, 文部科学省, 2012年8月、p13

4.1 TOKの特徴と能力観

- ・ディプロマプログラムの必修科目
- ・大学入学前の2年間、100校時

<特徴>

- ①すべての教科に通底する、目に見えない“方法”“学び方”を可視化している。
- ②一つの教科として体系的にまとめられている。
- ③総合学習を中心とした教科横断的思考法の提示をしている。

<重視している能力>

- ・論理的思考力
- ・表現力
- ・探究心や学術的思考・物事を多様な観点から分析する力

4.2 TOKのねらい

- 高度な知識を獲得することへの興味・関心を高め、その欲求を満たすための努力を促す。そのような考え、意識を持つことにより、資質・能力を更に高めていく。
- 個人やコミュニティにおいて、どのように知識が構築され、批判的に検証され、評価され、また新しい知識と置き換えられていくのかを認識させる。
- 日常の学習生活における「学習者」としての経験を振り返り、異なる学問分野における様々な考え方、感じ方、行動などの関連について考えるよう促す。

4.4 TOKの学習目標

【Knowledge Issue】

知識との様々な関わりを持ち、自分を取り巻く世界を理解していくうえで生じる疑問

●知識が示すもの、その前提にあるもの、背後にある意味などを批判的に分析する。

●「学習者としての生徒自身の経験や「知識の領域 (Areas of Knowledge)」、「知るための方法 (Ways of Knowing)」などの学習に基づいたKnowledge Issueに関する質問、説明、推測、仮説、仮説への反論、可能性のある解決法を導き出す。

●Knowledge Issueに対する様々な異なる考え方や認識について理解を示す。

4.5 TOKの評価

①外部評価：課題エッセイ(40ポイント)

- ・IBに指定された10テーマから一つを選択する。
- ・執筆の際の留意点が示され、教師がサポートする。

②内部評価：プレゼンテーション(20ポイント)

- ・個人または小グループ
- ・身の回りの環境で関心のある事柄をKnowledge Issueとして示し、探究する。
- ・ビデオやパワーポイント等様々な道具を使い、自分なりの見解や考え方を示す。

4.5 TOKの評価

評価の観点

☆具体的な評価基準(A～Dまでの評価基準)

①課題エッセイ

- ・エッセイ執筆時に作成したアウトライン
- ・初回の下書き
- ・参照と参考文献の適切さ
- ・文章の書き方、内容に矛盾がないか

②プレゼンテーション

- ・プレゼンテーション評価表(生徒側、教師側)
- ・評価の理由、根拠を明記し、共通の認識を得ること

4.6 TOKにおける課題

①現場の教師の力量に左右される

- ・カリキュラム全体はIB本部の承認を必要とする。
- ・IB本部と加盟校とで相互に細かい調整が為される。
- ・年1、2回、地域毎の責任者が視察を行う。

②教育課程の西欧偏重

- ・アジア、アフリカの加盟校は、同地域の文化に関する科目を選び、その科目のシラバスを作成することができる。
- ・ドイツ語、中国語が認められた。(日本語は検討中)

5. おわりに

- ・「総合的な学習の時間」におけるモデル構築の必要性
- ・初等教育プログラム(PYP)、中等教育プログラム(MYP)でのTOKの位置づけ
- ・評価基準の精査
- ・PISAの結果とTOK実施との相関性
- ・TOKの存在の有無が学力の向上にどのように関わっているのか
- ・実際の教師の実践や現場での困難、課題、教員養成

参考文献

- ・相良憲昭・岩崎久美子,『国際バカロレア—世界が認める卓越した教育プログラム』, 明石書店, 2007.
- ・朝倉淳, 池本よ志子, 広島大学付属東雲中学校『問題解決の基礎的能力を育成する新時代の総合的な学習—学校・企業・大学のコラボレーション—』溪水社, 2010.
- ・国際バカロレア・ディプロマプログラムにおける「TOK」に関する調査研究協力会議, “国際バカロレアディプロマ・プログラム Theory of Knowledge (TOK) について”, 文部科学省, 2012年8月
- ・斉藤雄志『知識の構造化と知の戦略』, p.i, 専修大学出版局, 2005.
- ・松下佳代(編), 『<新しい能力>は教育を変えるか 学力・リテラシー・コンピテンシー』, ミネルヴァ書房, 2011.
- ・文部科学省, 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間』2008.
- ・西村俊一, 『国際的学力の探究—国際バカロレアの理念と課題』, 創友社, 1989.